



## 都市ではなく、安芸高田市（自宅）で出来る就労の創出

安芸高田市の存続をかけ、人口減の対策は喫緊の最重要課題であります。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成27年の安芸高田市の人口29,676人が、10年後の平成36年には26,326人と推計され、3,350人の減少を見込んでいます。そのため安芸高田市では、長期総合計画（平成27年～平成36年）に於いて、国立社会保障・人口問題研究所の推定値より1,200人上乘せし、目標人口を27,500人と定めるところであります。この目標を達成するには、学校教育のレベルアップ、子育て支援の充実、空家等の有効活用、働く場（就労）の確保等の事業の展開が必要であります。なかでも働く場（就労）の確保は定住の必須の条件であると認識しています。

総務省では、人口構造の急激な変化の中で、個々の働く意欲に応え、その能力を遺憾なく発揮し活躍できる環境の実現や女性・高齢者・障害者の就業機会の拡大、出産・子育て・介護と仕事が両立出来る状況を創出し、労働力人口の減少をカバーするためクラウドソーシング・テレワークの推進

をしています。また、この事業の推進により、家族と過ごす時間・自己啓発の時間増加や安心して子育てが出来る環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランスの実現が可能であり、U・ターンの就労対策・柔軟な働き方により有能な人材確保・環境負荷軽減・営業効率の向上やコスト軽減が期待できるとしています。

安芸高田市では、3年前に光高速通信網を全市に整備しました。これは、市民への情報連絡（お太助フォン）への活用だけに設置したものではありません。私は、光高速通信網は都市と過疎地（中山間地）の差を無くする絶好の道具とっております。光高速通信網はこれまで都市部の定番であった在宅での物販を中山間地で可能にしました。企業（事業所）サテライトオフィスの誘致、仕事のための誘致・家庭で出来る仕事の創出（クラウドソーシング等）を可能にしました。これらの活用は、これまで不可能であった都市部に対抗出来る手段として、有効に活用し、定住に繋げて行きたいと思っております。これら事業の効果的普及拡大を図るためには、産官学の連携を強

め、市民向けの推進セミナーを実施する必要があります。いずれにしても、光高速通信網を活用した、クラウドソーシング等は、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方です。一方で、個人情報等のセキュリティ対策を十分に施す必要もあります。これらの対策を十分に講じて、この事業を推進すれば、安芸高田市の人口減対策（定住対策）の一役を担うことに、間違いなく確信しています。安芸高田市では「クラウドソーシング（テレワーク）」を平成29年度事業の中で、新規の重点施策と位置づけ、家庭で出来る、雇用の機会の増加を図って行きたいと思っております。



●題字：安芸高田市市長 浜田一義